

温古知新② うつほ物語 1

笑顔礼讃西東

かまつか井の頭句会様(東京都・練馬区) 2~3

紫をまぎ句会様(埼玉県・川口市) 3~4

神田九十九様(東京都・練馬区) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スランブル(今年一番印象に残った「喜怒哀楽」は?) 11~12

ニユースあれこれ 13

お客様の「リレーエッセイ」 久保田陽子様 14

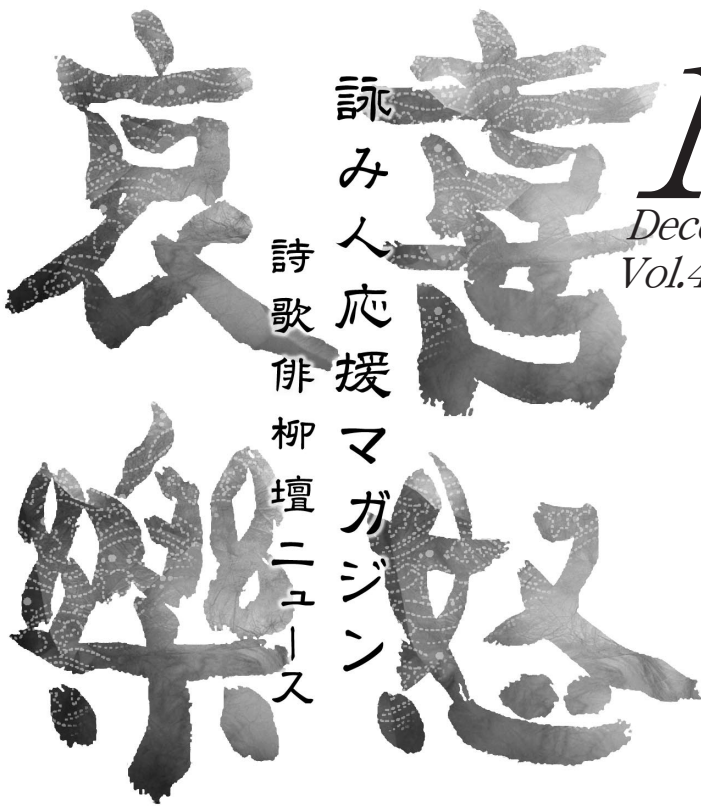
新潟ぶらり／萬代橋 西詰 高浜虚子句碑／新潟市立中央図書館 15

詠み人の「リレーエッセイ」 俳人日原傳様 16

12  
December  
Vol.47

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニユース



前回より始まりました「温古知新」。第二回目の今回は、「うつほ物語」のあらすじをご紹介しますと思います。

では、あらすじの前にざっとご紹介。

うつほ物語(宇津保物語)とも、日本の平安時代中期に成立した長編物語です。全二十巻。著者は不明(源順説などがある)。「竹取物語」にみられた伝奇的性格を受け継いだ、日本文学史上最古の長編物語です。写実的な描写などは『源氏物語』の成立へ影響を与えたとされています。

さて、あらすじです。  
若き遣唐使、清原俊蔭は渡唐の途中で難破のため波斯国(ペルシア)へ漂着しました。天人・仙人から秘琴の技を伝えられた俊蔭は、二十三年を経て日本へ帰着。俊蔭は官職を辞して、娘へ秘琴と清原家の再興を託した後に死んでしまいます。俊蔭の娘は、太政大臣の子息若子君(藤原兼雅)との間に子仲忠をもうけました。しかし、父没後の清原家は零落。貧しさをかこち、北山の森の木の間洞(うつつほ)で子を育てながら秘琴の技を教えました。後に父兼雅に見出され、仲忠は三条邸に引き取られます。

そのころ、左大将源正頼の娘、貴宮が大変な評判で求婚者が絶えませんでした。仲忠も貴宮の噂を聞き求婚者の一人となりますが、春宮からの求婚もありました。また、紀の国吹上に住む源涼も求婚者の一人となります。涼も秘琴を携えており、仲忠の好敵手となって、神泉苑の紅葉賀の際には、琴を競演し、天人が舞い降りると言う奇瑞を巻き起こします。そこで帝は涼として、涼に貴宮を、仲忠に女一宮を与える宣旨を下しました。しかし、正頼は貴宮を春宮に入内させ、求婚者たちの悲嘆は限りがありません。

### 温古知新② うつほ物語

んでした。入内した貴宮(藤壺)は春宮の寵愛を受け、二人の男の子を産みます。  
翌年の相撲の節では、帝のかねてからの願いであった俊蔭の娘が参内させられ、尚侍となります。また、仲忠は女一宮と結婚し、いぬ宮が誕生。仲忠は、俊蔭の霊が守る蔵を開け、伝来の書や俊蔭集などを発見、帝の要請でそれらを進講します。その頃、太政大臣が死に、正頼と兼雅が左右の大臣、仲忠も大納言に昇進します。また藤壺腹の皇子、梨壺腹の皇子ともに立太子の噂がながれ、立坊をめぐって世は騒然としてきました。そうしたなかで讓位が行われ、春宮が帝位につき、新帝の意志によって藤壺腹の皇子が立坊します。

一方、仲忠は祖先の霊が眠る京極に屋敷と楼を造営し、母、俊蔭の娘にいぬ宮への琴の伝授を依頼しました。四季の移ろいと琴の音が調和されつつ、いぬ宮は琴の秘伝を修得。翌年の八月十五日に嵯峨院・朱雀院を京極邸に招いて琴の演奏を披露し、限らない感銘を与えたのでした。

この物語は秘琴伝授の音楽物語を大枠として、前半に求婚物語、後半に立太子争いを織り込んだ構成となっています。しかし、全体としての統一性を欠き叙述も冗漫で、概して素朴稚拙の感は否定できません。しかし、あて宮の求婚者たちの多様な性格づけや、政争の渦中であつて一喜一憂する人々の心理描写などにはみるべきものがあり、また行事、遊宴の細叙や和歌の群作、会話や消息文の多用等々による写実的な特色ある叙述も、この物語が獲得した長編構築の方法としては見過ごすことはできないでしょう。  
『源氏物語』へと繋がるこの作品。ぜひともじっくりお読みください。  
(古川久美子)

# かまつか

## 井の頭句会

主宰 行川行人さま  
(東京都・練馬区)



▲温かくも的確な講評をされる行川行人主宰



▲1月号で715号を数える月刊「かまつか」

62年目を迎える歴史ある俳句の会「かまつか」は、今年から主宰は加藤三陽さんから行川行人さんにバトンタッチ。ご縁あって、来年少り雑誌「かまつか」のお手伝いをさせていただくこととなり、三鷹駅近くで開催されている井の頭句会にお邪魔いたしました。

### 武蔵野市・西久保コミセン

誰が音頭をとるでもなく、自然と出句して清記して、と会は流れるように進みます。本日は4句出句の7句選。一人ずつ自分の選を讀み上げ、一巡すると高得点句の

コメントを述べます。

### 8点句

おはじきや親指小指秋はじく 幸子

親指、小指とたたみかけて何をはじくかと思つたら「秋はじく」。想像外の言葉ときれいな句にひかれたリズムが非常によく舌触りのいい句。「や」は「の」でもいいのでは？／秋の乾いた空気のパチンという音が聞こえるよう／おはじきという可愛い道具が秋をはじく、そこに俳諧を感じた／親子ではない、なかなかとんちのある句／親子とは思わなかった。おはじきを知らない男性の発言では？(笑)／友だちかもしれないし、親子かもしれない。そこまで想像させる句。でもこの句の焦点は「秋はじく」。これで句がしまっている。お上手です。どなたの句？／幸子です／幸子さんすごい／最高／よかつたね／とってもいいわ

▲笑顔の見本のような加藤三陽会長は86歳

### 6点句

落ちそうで落ちぬ青空芋の露 玲子

季語の芋の露も青空も落ちそうで落ちないという相応のさせ方が上手。何もごたごた言わない、こういう句の作り方をしたい／芋の露に青空がキラキラ光りながらうつつて、なかなか落ちないという秋らしい句／川のそば？ 里山の方？と想像させる広がりのある素敵な句／芋の露というと、やはり飯田蛇笏の「芋の露連山影を正しうす」が浮かぶ。それだけに作者も覚悟を以て作っている。明るさがいい／「青空」を入れた場所がいい／芋の露をクローズアップした景が見える。

作者は？／玲子です／わあ、普段、山を見ている人はさすが！(玲子さんは山梨より参加です)

### 5点句

菊膾頂くときは正座して 三陽

菊膾と正座がよくあっている／膾の句でこういう句は珍しい／菊は日本の花、だから正座したくなるのかな／菊の御紋が連想されるからかも／なんとなく納得する句

三陽：きみえの

作ってくれた

菊膾を仏

前にあげ

たあと美味

しくいただ

く。だから正座

しないと食べられないのですよ(同席のきみえ夫人も苦笑)。

### 5点句

一人二人そして三人菊日和 政子

リズムがよくて気持ちのいい句／一人二人三人とたたみかけて菊日和のお天気良さ、楽しさがでている／俳句は数字をうまく使うと楽しくなる。「そして」がまたいい／とらなかつたのは一人二人三人があまりにも見られすぎて発見がないから。五人とか、二人三人から始めるとか？／この上にいくときははずすことを試みた方がいい。他の人がとるかどうかはわからないけど(笑)、覚悟をしたうえでやってみては。

### 5点句

足元の木の実ころがし中年期

ゆう子

中年期に納得。老年期までいっただら同調になる／私も中年期でいいのだ。老年期ではつきすぎ／でも中年期以外のいい言葉はない？アラフォーやアラカンなんてそういうカタカナ言葉が普通に俳句に入るようになるかも／アラカンなんて嵐寛寿郎かと思つたら還暦の還、アラウンド還暦の意味ですって／



# 笑顔礼讃西東

えっ！／「ころがす」と切った方が  
 中年期がはつきりする。でも中年  
 期そんなにいい？／熟年期はいや  
 だし更年期とか？（笑）／老年期  
 だったら木の実蹴り飛ばしてよ。

## 4 点句

**外見より中身に深み秋茄子 恭子**

秋茄子でこんな風に詠っている句  
 は初めて／「外見より中身に深み」  
 なんて俳句にならない言葉を並べ  
 た、人様が書かない書き方に共感  
 ／優れた表現でおもしろい。

**恭子**：茄子は少しでも風が吹くと  
 傷ついて皮も硬くて…シワが増え、  
 形も崩れて、人にも通じるかと思  
 いながら、でも中身はこうありたい  
 など／俳句も上手になつてしつかり  
 と中身が充実してきていますよ。

## 4 点句

**秋虹の太根より母あらわるるセツ子**

秋虹にお母さんのまぼろしが見  
 えた。実際の母なのか夢かうつつか  
 ／雨が上がつて空にはくつきりと虹  
 が。天国にいる母がその虹をくくつ  
 てきたイメージにほれた。

## 他の得点句

撫で仏限なく撫でて秋麗 恭子  
 政変は維新にも似て秋刀魚焼く 玲子  
 秋深し古書の扉に相聞歌 ゆう子  
 兄征きて還らざる道曼珠沙華 玲子  
 空掘の川に水来る小鳥来る 幸子  
 枯草を担げば風がついて来るセツ子  
 月光やダンス終りし象の鼻 行人

秋蝶のとどまりたがる男の肩 英子  
 父母のもと別れて独り鬼やんま 志偈夫  
 道連れは木犀の香よバスを待つ きみえ

■破顔一笑、現会長加藤さんご夫  
 婦のなごやかな笑顔に見守られなが  
 ら、行川主宰のコメントはしめるとこ  
 ろをピシッと締め、あとは各人の個性  
 が際立ち和やかに進む。

季節のお花や会の旗をご用意くだ  
 さつたり、高得点句の方には自分のこ  
 とのように惜しめない替辞をおくつた  
 りと、細やかなご配慮とお優しい  
 方々の会だということが、その居心地  
 のよさから伝わってきました。最後は  
 時間がなくハリーアップの掛け声。  
 「いつも楽しくてこうなるのよね」とい  
 う玲子さんの言葉がこの会を物語つ  
 ているようでした。（木戸敦子）



# 紫をまぎ句会

主宰 山崎十生さま  
 （埼玉県・川口市）



▲数多くの会の要職に就き  
 著書も多い山崎主宰



▲昭和16年10月創刊の  
 月刊「紫」

「伝統とは常に新しくなければな  
 らない」を標榜する「紫」。主宰の山  
 崎十生さんは月に17ヶ所の句会で指  
 導にあたるなど精力的に活躍。そ  
 の一つ、さいたま市尾間木の「をま  
 ぎ句会」にお邪魔してまいりました。

## 尾間木公民館 12時40分

主宰に随行し会場に着くと、す  
 でに全て用意万端の様。主宰の  
 ごあいさつの後はA4一枚の資料  
 「季語の語源」で、師走、梟、鴉、白  
 鳥、葱、巻織汁、鱈という季語の背  
 景、他の言い回しなどをお勉強。  
 最後に「語源にこだわるとどうして

も季語の説明をするという一番悪  
 いことをしてしまふ。季語を侮辱す  
 ることなく季語の力を信じて余計  
 なことは言わない」と念を押される。

本日は雑詠5句と席題1句投  
 句の8句選（うち特選1句）。席題  
 は不肖木戸にちなみ「戸」。

選句の後は、各人が選んだ特選  
 句についてコメントを述べます。

**柚子は黄に時々閉所恐怖症 裕子**  
 何の関連もないようで、でも素  
 敵な句だと思った。

**カラカラと鈴懸の実の呼ぶ日なり 以恵**

カラカラと鳴る音に何か心騒が  
 すものがある。自分の状況によつて  
 悲しくも楽しくも聞こえる、そん  
 な木の実の音を上手に詠んでいる。

**泣き顔も会話のつぎ根深汁 裕子**  
 辛いこと、悲しいこと、その顔を  
 見ただけでこれ以上言わなくても  
 わかる。根深汁で癒される心地の  
 する句。

**小石にも命のありけり親鸞忌 かえる**  
 よく見ると小石にもあざやイボ  
 があり、泣いたり笑つたりの表情に  
 見える。それと親鸞忌のつき方が  
 よくていただいた。

**目に見えぬ事が幸福冬木立 クーマ**  
 幸福にも表と裏があつて、表向  
 きは幸福だと言つても、秘めた幸

福こそ本当の幸福だと思うのでこの句をいただいた。

螺旋階段つるべおとしが待つてゐた

以恵

もどかしい感じのする螺旋階段と、つるべおとしという対比が印象に残った。

戸をたたく風に声ある霜夜かな

裕子

戸を叩く音に誰かが何かの知らせを？と思ひ、でも風だとわかり安心した覚えがある。風に声ありという感じがいい／霜柱が立つような静かな夜に風の声、この風情をいただいた。

その後は、1句ずつ主宰が講評をします。

「席題は苦手だという人もいますが、だからこそ挑戦してほしい。結果はすぐ出なくても積み重ねが大切。『この国のけじめ』の著者・藤原正彦さんの本に、0.1mmの新聞紙を26回折ると富士山の高さを超え42回折ると月まで届く、とあった。実際は不可能だから折らないでくださいと書いてありましたが(笑)。毎月苦しいだろうけれど、継続は力。私は雑詠3句席題2句という場合でも、5句全部を席題で作るという修練をしている。使用するペンもこれと決め、できないかもしれないけれど、できるんだ、という暗示

▼主宰の3重丸の句 律子さんは92歳

をかけながら(笑)。手帳ではなく小短冊に書き、雑誌に発表する10句以外は記録にとどめないように捨てる。そんな自分なりのこだわり持ちながら作っている」。

では、主宰の選句より

◆3重丸

見栄を捨て素のままなりし冬木立

律子



ある程度は見栄も必要だが、見栄を捨てたときに始めて力を発揮する。俳句も

うまく作ろうとすると余計な力が入り言葉も難しく硬くなる。力を抜いた、冬木立らしいその通りの句。

◆2重丸

山川草木無心にて寒に入る 律子

自然の在り様を肩肘張らずに作っている。「無心にて山川草木寒に入る」の方が整うんじゃない？

失敗が揺るがぬ力竜の玉 以恵

有名な俳人はつまらない句をたくさん作っている。ねじり鉢巻きをして1句だけ作っていい句とは無理な話。

高得点句より講評

6点句

納得ができて掃き寄す落ち葉かな

ちづ子  
できなきやそのまま困つちやうものね。

6点句

泣き顔も会話のつづき根深汁(前掲)

表情が見えてくる。

4点句

おかはりに遠慮はいらぬ一茶の忌

かえる

芭蕉だつたらそうはいかない。一茶だからこれでいい。

4点句

すこやかに生かされ老の柿旨し 美枝

「老い」に抵抗がある。老いは隠して「すこやかに生かされ柿の旨かりき」くらいで。

4点句

螺旋階段つるべおとしが待つてゐた(前掲)

ちようどいい時に出くわしたのでしようね。いつも同じ景気を見ているようでも、少しずつ昇っている。俳句も同様で、同じものを見ても内容が少しずつ変わってきている。

4点句

戸をたたく風に声ある霜夜かな(前掲)

やはり風と声はつきものというの、とらなかつた理由。

4点句

貧血に凭れる戸あり鱗雲 紅歳

鱗雲と自分の関係がよく出ている。

3点句

目に見えぬ事が幸福冬木立(前掲)

さつき律子さんが言ってくれた内容に尽きると思う。人間の幸福ってホントわからない。私なんて不幸の神様みたいなもんだから。どんなの句？

クーマです／クーマさんは幸せだよね、夫婦仲良く／かえるさんとクーマさんだから。息子さんは黒猫で、動物俳句一家(笑)。



「そっちの方がいいかもわからな いね」と、決して押しつけることなく 独特の間と静かな口調で語りかける山崎主宰。季語の勉強にしろ講評にしろ、その言葉の端々から皆さんに少しでも上達してほしい、俳句を生涯の友にしてほしい、という想いが伝わってくる。その想いこそが月に17ヶ所での句会を可能にする動因なのだろう。「先ず隗より始めよ」で、自らチャレンジングに修練の身。94歳の律子さんだから言える幸福の話、92歳の美枝さんの「知る」と見ることを入っておもしろいから、もったいなくて死ねない」という話を、うなずきながら優しく受け止める姿が印象的でした。(木戸敦子)

# 笑顔礼讃西東

## 神田九十九さま

(東京都・練馬区)



▲香川県の実家と東京を行き来する神田さん

2008年3月から今年12月にかけて、『神田九十九句集 鷗尾の夕映え(資料編)』『アポロンの罨』『面影橋』のお手伝いさせていただいた神田九十九様にお話をお聞きしました。

### ■俳号の九十九とは珍しいですね

投句をする際に、本名では硬いので故郷香川の江甫山(つくもやま)ではどうかとひらめいた。ただ、九十九で「つくも」はありきたりなうえ、俳号にしてはどうかかなあと思(笑)、九十九里浜や九十九島もあるの(笑)でそのまま「くじゅうく」としました。

### ■子どもの頃から俳句を?

実家は農家なので、手伝いをして御駄賃をもらって『幼年倶楽部』や『少年倶楽部』を買って走りました。軍艦がいくら、なんてことまで書いてあり、漢字にはすべ

てルビがふられていたので隅から隅まで読みました。それが基礎になったのでしょね。本格的に俳句と取り組むきっかけとなったのはNHKの講座で「水明」(文語、有季定型俳句)主宰星野紗一氏の講座を受講してからです。氏の俳句は、それを作った昭和20年代としては、今の口語俳句よりも斬新な口語体の俳句が多く見られます。

### ■柘榴割れる村お嬢さんもう引き返さう海より春の風妻よバセリをききみなさい

初期の段階で、直接氏に邂逅し薫陶、懇篤を得たことが、俳句の骨組を形成してくれたと、今でもこの幸運に感謝しています。

### ■何冊か著書がありますが?

戦後間もなく書いた詩や小説は判読しがたいうえ、散逸する怖れもあったため、沖繩戦当初、特攻機で散華した親友に関する作品を中心に『沖繩の眼』として、その後執筆した論説、俳人の評伝などの主要な文章を『クレオカレスの頌歌』として出版しました。

### ■『アポロンの罨』はどのような経緯で?

「水明」時代にほぼ句集の成案を得てい



▲句集『アポロンの罨』と『面影橋』

たのですが、その後新しいフロンティアを求め「主流(口語俳句)に移籍したため実現には至らず。「主流」では、歴史を題材にする俳句が多くを占めたため、第一句集としてこれらをまとめて出版することが適切だと判断し『鷗尾の夕映え』として上梓しました。

これで戦後執筆した作品の主要なものは構想どおり一応出版の機会を得たわけですが、やはり「水明」時代の俳句が欠けていることが心残りであり、かつ口語俳句に至るベースとして「水明」の文語、有季定型俳句が厳然として存在することを明らかにする必要があると思ひ、第二句集として『アポロンの罨』の出版を決意しました。

### ■『面影橋』は?

『主流』には、「主流俳句」と「同人作品」の二つの欄があり、前者には叙事的作品(歴史俳句)を、後者には主に叙情的作品(一般的な俳句)を出句していました。前者をまとめたものが『鷗尾の夕映え』であり、後者についてもできれば句集を...と思ふものの十分な成果を得ていなかったため、出版は頓挫。そんなとき、御社の「朱鷺めきセツト」の企画で小句集としての刊行が可能となり、『面影橋』として出版しました。

### ■これからは?

『鷗尾の夕映え』出版後、更に新しいフロンティアに挑む意欲が出てきたので、詩としての俳句を深化、発展させるため『世界最短詩』の「詩のエスプリ」として『世界俳句』に挑戦しています(『世界俳句』は有季定型に替えてキーワード、切れ等に力

### ■次々とフロンティアに挑まれますが?

戦国時代の連歌師・俳諧作者の山崎宗鑑が晩年を過ごし、そこで生涯を終えた「一夜庵」は郷里の観音寺市の興昌寺にあります。幼い頃から慣れ親しんだその場所に、何年前か前、足を運ぶと天の声が聞こえたのです。「文語はやめて口語に」と。「新しい酒は新しい革袋に盛る」、現代俳句にフロンティアに挑む精神を見ているので、宗鑑が見据えたであろうフロンティアに私も挑みたいと思っています。

### ■『アポロンの罨』より

石を研る音梅林の上を過ぐ  
春めくや貝殻骨に乗る鷗哥  
早春のレールかたりと転輸機  
『面影橋』より

春雨にじむ手紙がくれたときめきか  
岩山真つ赤に夕焼ける だれの陰謀

★以前は総務省にお勤めで定年後は、「宮仕えさようなら、これからが自分の人生」とばかりに、本格的に俳句に取り組んだという神田さん。お預かりする原稿は見るとのことを考え、お手本のよう(笑)にわかりやすく整理され、流麗な文字が躍る和紙のお手紙はいつ見てもため息がでるほど。お話の最後に「私は脱線の名人だから(笑)」と言いなながらも、それは知識が豊富だからできること。柔和なお人当たりの内には、気骨と進取の気性がぎゅっしりと詰まっています(笑) (木戸敦子)

# 投稿作品

※今月も、みなさまから沢山のすばらしい作品を投稿していただきました!  
今後も、みなさまの投稿をお待ちしております。  
次回掲載分は1月13日(水)締切です。

## 俳句

- 1 墨痕の細身に舞ひし一葉忌  
千代田栄次(東京都)
- 2 燃ゆる間が命をんなと曼珠沙華  
井原毬子(東京都)
- 3 爽やかに和顔愛語の隷書額  
大橋恒次(新潟県)
- 4 界隈の翅虫寄らしむ花ハツ手  
吉田未灰(群馬県)
- 5 移りゆく時の早さよ酔芙蓉  
三ツ木宗一(東京都)
- 6 老二人阿云(す)す夜長かな  
伊藤修敬(三重県)
- 7 栗拾ひ童心つづくところまで  
長谷川ふさを(新潟県)
- 8 減反の叢揺れてあきあかね  
山川みど利(山形県)
- 9 秋冷の厳めしきかな千代田城  
堀井和(神奈川県)
- 10 秋夜長パンドラの箱でもあけようか  
松涛千鶴子(東京都)
- 11 職を退き職に拘泥穴まどひ  
奥井朗(東京都)
- 12 庭先の赤い紅葉が風に舞う  
佐藤佑子(福島県)
- 13 力瘤踊らせて打つ走り蕎麦  
和栗痴龍(新潟県)
- 14 笛の舌酒で湿して秋祭  
野木宗信(奈良県)
- 15 稲熟れて坂東太郎に水返す  
吉村筑紫(埼玉県)
- 16 耳鳴りと紛ふばかりの螻蛄の鳴く  
佐藤君夫(千葉県)
- 17 会うたびに挨拶交す今朝の秋  
岡本歩城(高知県)
- 18 秋の燈の書架に探せり放浪記  
松嶋光秋(東京都)
- 19 愛した書廃棄迫らる藪辛夷  
栗原啓子(埼玉県)
- 20 山彦の遠く流れり秋の声  
油谷郷史(兵庫県)
- 21 鮭を呼ぶ母なる大河動し  
山東爺(北海道)
- 22 亀甲に輝いる田有り案山子祭  
星一子(神奈川県)
- 23 草刈つて道を広げて秋祭  
村瀬憲正(岡山県)
- 24 十六夜やかしこ追伸追々伸  
有馬愛子(大阪府)
- 25 今年から母の日の母いなくなり  
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 26 朝空に淡く光りて後の月  
木村俊彦(奈良県)
- 27 喜寿よりは一氣に傘寿菊は葉に  
内河邦久(東京都)
- 28 亡き母の分まで浴びる花吹雪  
大久保アヤ子(東京都)
- 29 背で眠る真白き足袋や秋祭り  
杉村美保子(岩手県)
- 30 地球村ここは雪国奥座敷  
菊池シュン(青森県)
- 31 山手線百世呼ばれて回る秋  
三津木俊幸(千葉県)
- 32 世渡りの賽の目外れ日向ぼこ  
田中敏晴(奈良県)
- 33 金色に染まりて靡く夕芒  
星野三興(新潟県)
- 34 秋日和妥協を嫌う子の眠  
林克(福島県)
- 35 衣更へて心も変へて将来を行く  
五十嵐勝敏(新潟県)
- 36 夕映えの埧塙となりぬ曼珠沙華  
渡辺嘉幸(東京都)
- 37 秋彼岸この青空は浄土まで  
大阿久雅子(東京都)
- 38 敗荷に風のすぎゆく狐雨  
平山千江(岩手県)
- 39 街並みの狭間の風や竹の春  
竹本美美子(新潟県)
- 40 爪先でむく毬栗の笑声  
大塚徳子(埼玉県)
- 41 優しさを少し演出着取る秋  
村松知津子(大阪府)
- 42 秋日和「ねんりんピック」の旗靡き  
梶鴻風(北海道)
- 43 能面に宿れる命世阿弥の忌  
長尾俊彦(香川県)
- 44 ふるさとや筑紫二郎と野分かな  
春口蓮男(静岡県)
- 45 能管の止みて静寂後の月  
津田忠彦(岡山県)
- 46 草もみじその活力へ踏み入りぬ  
望月よし江(埼玉県)
- 47 亡き父の尺八の音や十三夜  
堀木和子(大阪府)
- 48 父母に愛され雛を愛しけり  
高安春蘭(大阪府)
- 49 人去りてベンチに残る秋の風  
須田洋子(埼玉県)
- 50 百日草根元に蝶の翅一つ  
木村貞恵(静岡県)
- 51 花野原ゆすりて牛の立ち上がる  
北村純一(神奈川県)
- 52 落日に身をまかせたり酔芙蓉  
野村牟人(東京都)
- 53 新米を炊いて深まる思郷かな  
大谷茂(埼玉県)
- 54 古史潰え雁がね寒きダム湖かな  
関谷秀二(愛知県)
- 55 月待つや羅漢方丈風渡る  
浦橋克行(兵庫県)
- 56 いちしくの乳房が揺れる女風呂  
大井光隆(神奈川県)
- 57 玉入れや勝利の玉は秋天へ  
山本直子(大阪府)
- 58 秋薔薇真紅の色の濃く淡く  
沢紅子(岡山県)
- 59 月上がる船上ジャズのたけなはに  
鈴木岑夫(千葉県)
- 60 なにごともなかりしさまに火花

- 終ふ 能條憲夫(神奈川県)
- 61月を褒め夫に酌みたる菊の酒 佐野しづ子(愛知県)
- 62寝耳水浅瀬仇波寝覚草 小俣英之助(大阪府)
- 63豊年や田舟鎮座の民具館 今井勝子(新潟県)
- 64芙蓉咲き秩父国民決起の地 佐藤信(神奈川県)
- 65田の神を送る宴やきのこ汁 竹内ハヤ子(埼玉県)
- 66三猿の教え身に沁む枯尾花 野別忠孝(埼玉県)
- 67山動き自民潰えて黄落す 渡邊昭雄(東京都)
- 68小春日や畑で横寝の老農夫 早矢仕邦夫(愛知県)
- 69暖簾開け女将を愛でて秋刀魚喰う 忍正志(兵庫県)
- 70菊花展ひょうひょう伸びてユーモア賞 中嶋清子(佐賀県)
- 71許されて随行したき神の旅 有坂馨園(福島県)
- 72虫時雨耳の触覚動きます 富樫和子(山形県)
- 73影ふみを知らぬ子ばかりまろき月 秋谷静子(茨城県)
- 74木々に生る音を聞きあゝる十三夜 小原わ子(大阪府)
- 75能面の眼鏡く遠雷す 乾久子(滋賀県)
- 76老母さんとふたり花野の車椅子 暉峻康瑞(鹿児島県)
- 77柿熟るる限界村の青い空 斉藤慎悦(秋田県)
- 78象を殺すことを一度は思いけり 諏訪杜夫(埼玉県)
- 79十和田湖の湖四季の膳や菊枕 福岡悟(東京都)
- 80石階に木の実の弾む日和かな 袖山美峯(東京都)
- 81ときどきに人驚かす古添水 炭崎博(滋賀県)
- 82十二単に水掛けており菊人形 吉田ひろし(愛知県)
- 83長き夜やコーヒーを飲み紅茶飲み 藤沢樹村(東京都)
- 84高速道秋の灯とんで里心 丸山道子(新潟県)
- 85一升の焼酎五日それでよし 坪田勝秀(鹿児島県)
- 86美男かも美女かも知れず秋刀魚食む 中西孝子(兵庫県)
- 87滝の上に日のはまりおりつた紅葉 高杉杜詩花(北海道)
- 88草むらのにぎやかなこと烏瓜 北野耕兵(千葉県)
- 89秋の空飛鳥めぐりの塔二つ 矢野絹枝(東京都)
- 90ところん突けば古里歪みけり 鈴木蝶次(宮城県)
- 91鼓を打たばどこまでひびく秋日和 野呂瀬幹雄(愛知県)
- 92門火焚く風樹の暎を今もなほ 佐野和彦(静岡県)
- 93門よりは韋駄天走り猫の恋
- 94今朝捕れの太刀魚並ぶ市場かな 稲葉節子(静岡県)
- 95コスモスが可憐に咲きし頭下げ 宮川昭男(高知県)
- 96紅芙蓉最後の一夜雨の中 五味田幸夫(栃木県)
- 97在祭子供相撲に職立て 野村盛明(埼玉県)
- 98蟬背負う古木は亡母の背にも似て 佐藤茂三郎(千葉県)
- 99お岩木に顔のみなむく林檎椀ぎ 辻升人(東京都)
- 100人の世の重なりあふて黄落期 白鳥光雄(青森県)
- 101もろもろの有為転変や草の花 堀たかこ(大阪府)
- 102ゐのこづち釣り人時を待つ 岩村昇(神奈川県)
- 103鉛色の鯊静まれる魚籠の隅 小山たけし(埼玉県)
- 104一つ濃くノラという名の星流る 四宮陽一(京都府)
- 105つややかに穂の出で初めし花薄 堀信一郎(大阪府)
- 106ベランダを汚して朝の桜かな 和田迪代(静岡県)
- 107生きるため老い支度して秋刀魚かな 木下精(大阪府)
- 108ススキ穂々白髪なりて冬隣り 川崎洋吉(福岡県)
- 109荒城の萩を零して武者返し 早川述史(愛知県)
- 110ふゆぞらは人生の常に凍り付く 浅沼洋子(神奈川県)
- 111妻の縫ふ衣ずれ続く落ち葉の夜 齊藤安弘(神奈川県)
- 112秋服着て和風の暮らし糸瓜垂る 居原田連星(大阪府)
- 113犬住まぬ犬小屋のあり赤まんま 小林七重(新潟県)
- 114手にとつてしみじみ視入る黄砂かな 中川平治(東京都)
- 115西風に泉は空へ流れけり 浜田蛙城(静岡県)
- 116バースデイケーキ亡き孫に供ふ秋の暮 小野寺裕子(宮城県)
- 117秋空に談議のはづむ老人車 石原寛(千葉県)
- 118冬近し破れ障子を繕ろはん 鈴木辰彦(愛知県)
- 119父の背のいよいよ丸み菊手入れ 梅津陽子(千葉県)
- 120龍飛崎めざす山道月見草 小原登志子(大阪府)
- 121ご命講代々我が家は不受不施派 延原令岱(岡山県)
- 122回向塔なお高く見ゆ今朝の冬 田島屋景子(宮城県)
- 123夕空に声をのこして雁の棹 堀田寿美子(北海道)
- 124流れ星孫と見あげる神無月 中村和弘(愛知県)
- 125友と旅ぎゆつと詰まる錦秋景 柳澤京子(宮城県)
- 126新そば待つ峠の茶屋の昼の酒

- 127 新蕎麦や信濃の旅の古稀と喜寿  
羽根田明(神奈川県)
- 128 聴こへたる嗚呼晩秋の鉦かねの音か  
安木沢修風(新潟県)
- 129 鯛雲いつか一人となる二人  
中岡昌太(神奈川県)
- 130 故郷の訛ははまだ衣被  
吉村充治(埼玉県)
- 131 煩惱も執着も捨て月清し  
神作洸江(埼玉県)
- 132 良寛の生地毬めく新松子  
本間七窪子(山形県)
- 133 秋寂し朽ち木ペンチの丘に座す  
藤井春三(埼玉県)
- 134 リュック背に芒の風に誘はれて  
小田眞佐代(大阪府)
- 135 放水は火の字が標的震災忌  
湯浅芳郎(岡山県)
- 136 牛の眼や晩秋の陽に積み込まれる  
神一男(静岡県)
- 137 焚火して神主を待つ地鎮祭  
小西四郎(東京都)
- 138 職のなき人も見ている菊花展  
宇田川正雄(埼玉県)
- 139 照紅葉良寛ゆかりの国上山  
磯部力(新潟県)
- 140 夜長かな夢の一章第二章  
大窪美代子(大阪府)
- 141 酔芙蓉少し乱れて入日かな  
池本勇(大阪府)
- 142 灯台の点り一湾時雨けり  
西村けい(茨城県)
- 143 日本の大地跨ぎて大根引く  
吉野成行(愛知県)
- 144 眠らざる風車発電銀河濃し  
野原香雪(北海道)
- 145 秋天に靖國の黙大鳥居  
増本和子(千葉県)
- 146 一筆箋に月すくいとする女人かな  
竹澤茂子(大阪府)
- 147 月盈ちて行くほど軽くなりけり  
新井竜才(埼玉県)
- 148 へばりつく生の証しか草風  
阿部幸子(宮城県)
- 149 越後から武州を抜ける雪の風  
佐藤政實(埼玉県)
- 150 派遣切れ神の留守居に貧乏神  
鈴木与平(宮城県)
- 151 落葉踏み幼な心の目醒をり  
石川郁子(埼玉県)
- 152 せんせいに先生ありて鯛雲  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 153 金秋や近づく旅へ指を折る  
重原昇(新潟県)
- 154 秋雲の水面に流れ晴れの国  
矢部昌子(岡山県)
- 155 居残りの児ら九九の声いわし雲  
布目雅之(埼玉県)
- 156 この街もコスモス揺れて息子住む  
中山日出子(大阪府)
- 157 夢はなに朱鷺侍らせて山眠る  
村木尚(新潟県)
- 158 炊きたての新米白し笠間焼  
古谷力(東京都)
- 159 境界の竹垣沿つて石路の花
- 160 流儀あり妻の指図の煤払  
津布久信雄(東京都)
- 161 柿甘し母の笑顔も届きをり  
出井静枝(三重県)
- 162 和やかに母の忌修す良夜かな  
大下志峰(福井県)
- 163 秋桜ががんばらなくていいんだよ  
杉浦俊雄(静岡県)
- 164 しんしんと心につもる想ひ出よ  
大橋絵代(千葉県)
- 165 夕陽背にフィナーレを舞う赤とんぼ  
岡村君枝(茨城県)
- 166 浅草に阿波の踊りがやつて来た  
福田和子(東京都)
- 167 霜降に采園気にす丸い母  
森崎榮久(岡山県)
- 168 ほんとうの空は煙りて霧の奥  
池田岬(埼玉県)
- 169 蟹せざる指のおどろく加賀太鼓  
長谷部喜代子(大阪府)
- 170 蕎麦の花日輪さしむごと沈む  
池上秀子(高知県)
- 171 耕してたがやし終えて往きけり  
佐藤秀子(東京都)
- 172 一鍬にうす紅匂ふ新生姜  
清まさじ(静岡県)
- 173 松茸をかんでひとときセレブ婚  
針生清(千葉県)
- 174 花石榴脳裏にその実はじけたる  
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 175 知りをりて名の出ぬいらす秋の草  
上谷すみゑ(神奈川県)
- 176 アルバムに悲喜こもごもの秋思かな  
柴田恵美子(北海道)
- 177 ちちろ虫貧しき声や三日前  
橋本まこと(栃木県)
- 178 鳥騒ぐ声に目覚めぬ木守り柿  
田野井一夫(栃木県)
- 179 俳聖の句碑あり笠森丑の秋  
八木智恵子(千葉県)
- 180 菊日和つむじ曲りの人といて  
高垣勝代(大阪府)
- 181 口開けて寝る夫に添う秋の朝  
奥田昌子(大阪府)
- 182 一喝か神の怒りか木の実落つ  
椋本望生(大阪府)
- 183 仏道草にまぎれし冬の虫  
大場きよし(宮城県)
- 184 甘い実がなるのになんでまむし草  
中島尚武(愛知県)
- 185 命の灯点す長夜を寄り添いぬ  
北嶋八重(京都府)
- 短歌** ++  
186 台風の去りししげさひと枝のむらさきさきさぶつゆをむすべり  
小島千架子(東京都)
- 187 雪明り淡しと言へる君とるて温くしと言へり手を握り合ひ  
鈴木清美(愛知県)
- 188 突風に押されつつ夕の街を来てふと思ひ出づ君のレッドパーズの歌  
木暮珣子(群馬県)
- 189 有明に雪洞溶けてひたひたと胡弓の調べ路地に消えゆく



190 小堺栄子(群馬県)  
ドラマ一つ終りて一斉に席をたつ  
涙ふく者涙をかむ者

191 佐々木都(長野県)  
月光が薔薇園に射し青むしが夜ご  
と次第に太りてゆきぬ

192 北岡晃(兵庫県)  
竹槍の訓練に汗せし母たちよ昭和  
二十年の村の校庭

193 吉田ゆき(新潟県)  
かなしきほど美しき村々へめぐり  
き妙高山麓秋たけなわの日に

194 千木良宣行(埼玉県)  
花芽つけしサボテン廊下に移した  
り秋の日差しに生命膨む

195 小島秀雄(福島県)  
スローライフ年を重ねてよく見え  
る身近な人のかげがえのなさ

196 田村淳子(新潟県)  
大野町古今散策迫り来て夜の町  
かどのぼり立てたり

197 高須孝(愛知県)  
人逝きて帰らぬ庭に季節は来て紫  
苑は高く花を咲かせり

198 高橋邦子(高知県)  
あ行から始まる言葉妹に言ふ満た  
されみたす言霊抱き

199 堀井酔人(茨城県)  
赤黒水色カラフルな鞆見守りきよ  
うの始まり

200 藤原昭三(滋賀県)  
おおいくつ効きすぎたるらし立ち  
直るこの政党を見守りゆかむ  
土屋喜雄(山梨県)

201 黒澤正行(福島県)  
伏す母の泣きやむを待ちむつき替  
ふ本能的に恥部は恥部らし

202 桑原謙一(群馬県)  
ゆるぎないやさしさあふれる富弘  
の足どり確かな花の絵と詩句

203 安部龍太(山梨県)  
飲み込める言葉多くて鳥よりも重  
きからだの人の切なく

204 今井忠一(東京都)  
テレビ今惚れた腫れたに切った張っ  
た心打つもの何故にやらぬか

205 山本敏順(長野県)  
思うよに歌も生まれず焦る身に  
ゆつたりと雲の羨ましけり

206 田邊美代子(三重県)  
時経しもあの感動は忘れまし引揚  
船より見えし日本

207 佐伯セツ子(香川県)  
たらい舟乗りたやおけさ踊りたや  
お光吾作の柏崎港へ

208 小暮昭司(群馬県)  
息子嫁孫のスナップ写真をばひろ  
げてわれは祝盃あげる

209 椎忠夫(神奈川県)  
七厘に焼きし秋刀魚のはるかなり  
電気つかふも味感かはらず

210 岩崎令子(大阪府)  
うらみごとそつとのみ込み善い人  
と云われて逝かんコスモスの頃

211 後藤美佐子(長崎県)  
右の肩左の肩を濡らしつつ二人ひ  
とつの傘遠ざかる

212 萬濃その子(千葉県)  
砂時計返せばまた落つる白砂に時  
の流れをわれは見てをり

213 久保和友(滋賀県)  
八甲田より下山すりユックに雪あ  
りて酸ヶ湯で叩く手袋真赤

214 西山悌三郎(高知県)  
智恵ある木木競ふも無為策習は  
しと焦り振り分け暮れの剪定

215 大江秋月(兵庫県)  
流れ星と共に内地へ帰りたい

216 羽田桐柳(群馬県)  
小者だが馬子にも衣装箔が付き

217 工藤昌見(山形県)  
風の盆豊作祈る祭りかな

218 青木日出男(群馬県)  
電話口傘寿の媪まだ娘

219 大川聡(新潟県)  
科学者よ東海地震予測して

220 田澤宏(新潟県)  
褒めながらボクも愉しくなつてくる

221 南喜美子(千葉県)  
スリッパの川柳なるほど99999  
奮怒哀楽10月号3頁参照

222 百花清(埼玉県)  
五所柿や五右衛門子規に一つづつ

223 近藤はつみ(福岡県)  
なぐさめの話が逆にされている

224 河合ヤスエ(大阪府)  
八十路こえ親が子になり子が親に

225 大竹和男(新潟県)  
渡り鳥霞が関に屯する

226 中森儀雄(三重県)  
親蔓にくるくる巻きの宇宙人

227 小山恵美子(大阪府)  
明日香の里情けが炎える曼珠沙華

228 山崎一嘉(愛媛県)  
修身がなくなり心あれ放題

229 宮崎正男(群馬県)  
忘れないようにメモした紙が無い

230 中林恵子(大阪府)  
柱抱き泣いてた息子父親に

231 中嶋秀次郎(埼玉県)  
内視鏡覗けば見える腹の虫

232 高柳閑雲(愛知県)  
言い訳が下手で誤解をすく招く

233 奥那於子(富田林市)  
ママと病院見て見てほくの柄マスク

234 野口昭夫(群馬県)  
初恋のラカンパネラで別れ聞く

235 藤井北灯(福岡県)  
ばかやろう俺より先に逝くなんて

236 岡弘子(埼玉県)  
旅行前荷物出し入れ落ち着かず

237 岸田晴代(奈良県)  
孫インフルになり灯が消えたよう

238 石原学(群馬県)  
きつかけはのど飴一つあげた縁

239 田久保孝彦(神奈川県)  
病棟で朝のにおいに目がさめる

240 富高くにひろ(埼玉県)  
ポーズ付け煉けて集う駅の隅

241 森本遊笑(兵庫県)  
煩惱は尽きぬ好好爺になれぬ

※前回10月号の投稿作品で有名俳人の類似句を掲載  
いたしました。ここにお詫び申し上げます。

# 心に残った作品

毎号募集しております「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返事をお寄せ頂きありがとうございます。ありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

## 54 夕焼けの奥へ奥へと投網打つ

北村純一(神奈川県)

・夕暮は茜から金色へそして紫へと深まるのだが、捕れて捕れて止められない。鈴木清美(愛知県)・華麗雄大、静寂、寂寥。千木良宣行(埼玉県)・奥へ奥への惜辞 平山千江(岩手県)・投網を打つ先が夕焼けの奥というのが良いですね。四宮陽一(京都府)・「奥へ奥へと投網打つ」が実にいいです。小暮昭司(群馬県)・中七の「奥へ奥へと」で夕方の漁をしている景が上手に詠まれている。小田眞佐代(大阪府)・夕焼空に拡げた投網、舟と人とのシルエットと光る波の大きな景、チャレンジャーの気迫もあり。佐藤秀子(東京都)

## 【自句自解】

私の故郷に神奈川県民六割の利水の川である一級河川「相模川」があります。子供の頃からこの大河で遊び育った母なる川でもあります。「鮎の川」とも親しまれ水態系の宝庫です。この川を暫く眺めていると懐かしい子供の頃が甦ってきます。

地元の人達が鮎釣りを楽しみます。ふと遠方に目をやると投網を楽しむ老人がいました。何度も何度も高く投げ、まるで夕焼を捕えるように、影も踊り川面に映える夕焼とのシルエットが美しかった。

## 122 墓洗ふ一杓ごとに語りかけ

関口修一(群馬県)

・両親を思ふ心が深い。同感です。奥井朗(東京都)・ほのぼのとした人間の情の機微 野別忠孝(埼玉県)・私にも経験があり身にしみました。秋谷静子(茨城県)・祖先を敬う心慕う様子がよく表現されている。田島星景子(宮城県)・墓洗ふ時語りかける気持共感します。一杓ごとがよい。大窪美代子(大阪府)・自分をこの世に遺して逝った人がどれ程大切な人かしのばれる。竹澤茂子(大阪府)・中七のフレーズが作者の心情を伝えて余りある。大下志峰(福井県)

## 【自句自解】

三十五年前、くも膜下出血であったと言う間に他界した母は、ひとくちに凄い母でした。清貧の中子育てに全身全霊を傾けるタイプで、子等に自立心を植え付けるべくある面では厳しい母でした。その母との関わりの中で、こうあらねばと子等に宿題として投げ掛けられた数々の言葉が今でも身に沁み付いて居ります。

そのやりとりの返事を含めて墓参の時は母に近況報告を含め語り掛けています。母の齢を越えた今でも墓前では子供にかえります。

## 161 曼珠沙華表も裏もなかりけり

野別忠孝(埼玉県)

・畔道や堤に群生する朱の花はたしかに一色に燃えているようですから。人もまたかくありたい。小堺栄子(群馬県)・そう言われてみればどの角度から見ても同じ。この世の中は裏表があり過ぎ。それへの思いを詠まれた。有馬愛子(大阪府)・生きることの楽しさである。五十嵐勝敏(新潟県)・ただ紅蓮にだしぬけに咲く運命の花にウラオモテなし。坪田勝秀(鹿児島県)・唯一途に咲いている赤い曼珠沙華の花を目の前にして心も純。矢野絹枝(東京都)ほか

## 164 若きらに見守られつつ共に住み気負う事なく今日も畑打つ

野木宗信(奈良県)

・何と幸せな、淡々とおくらしの御様子に。高須孝(愛知県)・元気が何より素晴らしい。北村純一(神奈川県)・昨今都会では味わえないなつかしい日本の家族のほのぼのとした情景がうかびます。岩崎令子(大阪府)

## 210 ゆっくりしていきや里の温い風

小山恵美子(大阪府)

・私は柳暦五十年ですが相当句が先輩と見える。大江秋月(兵庫県)・里帰りした時風のささやきに誘われる様に。近藤はつみ(福岡県)・「ゆっくりしていきや」という大阪弁「温い」心が伝わります。奥那於子(大阪府)

◎その他にも、こんな句・歌が挙げられていました。

- 4 炎昼や陶狸は無我の貌さらす 乾久子(滋賀県)
- 76 ほおずきやその慎ましき朱が好き 仁藤ひろじ(埼玉県)
- 100 仏壇の父に酒置く終戦日 早矢仕邦夫(愛知県)
- 106 農継ぐを美談となせり過疎の村 井口武重(新潟県)
- 114 運動会そのまま駆けて空に出て 久保田耕平(埼玉県)
- 138 洗い髪夜かぜにまかせ盆の月 橋本まこと(栃木県)
- 154 背ナの子の片手で真似る盆踊 廣瀬喜代子(岡山県)

※今後ふるってご投稿をお願いいたします！なお、作品は原稿通りに掲載いたします。楷書にてはつきりとお書きいただくとともに、誤字脱字等くれぐれもご注意ください。

前回のアンケート

Q. 今年一番印象に残った「喜怒哀楽」?

今年も様々な「喜怒哀楽」がありました。来年は、「喜」と「楽」が多い一年でありますように…!

「喜」
今年はずべて「喜」につながりました(小島千架子 東京)
「おーいお茶の新俳句が165万人の中から選ばれビックリ!(井原稔子 東京)
敬老の日に可愛がついている知人の息子の愛娘からプレゼントを貰った(大橋恒次 新潟)
叙勲の沙汰あり市長より祝電をいただく(伊藤修敬 三重)
花巻市の「賢治の歌全国大会」で入賞した感激(長谷川ふさを 新潟)
愛読書で共通の話題が生まれ中一・小三の孫との交流が深まった(小堺栄子 群馬)
全国で十人のニューエルターシチズン大賞をいただきました(佐々木都 長野)
遠く岡山に就職した孫娘から思いがけない手づくりのプレゼントが(松涛千鶴子 東京)
息子社会人に(北岡晃 兵庫)
私共夫婦結婚六十周年目(ダイヤモンド婚)夫八十八才、妻八十三才(奥井朗 東京)
妹が癌が治り退院(野木宗信 奈良)
怒哀も努力で喜としたい(大江秋月 兵庫)
自分では考えつかなかった生活を体験できるよう準備中(栗原啓子 埼玉)
『釣ロマン』の発刊(油谷郷史 兵庫)
貴社で四人句集を出したこと(村瀬憲正 岡山)
貴書房のお世話になり「星座百一」の刊行。その記念大会をリーガロイヤルホテルで開催有馬愛子 大阪)
「お笑いショウ」でグランプリ(大久保アヤ子 東京)
句会に入会して二年目、投稿した句が初めて掲載されうれしかった(杉村美保子 岩手)
「句集雪おんな」の発行(菊池シユン 青森)
十一月末に埼玉県から文化庁賞を受賞の通知が来た(三好あきを 埼玉)
障害者の国体に見えられた皇太子さまに偶然お目にかかり思わず笑顔で手を振った(吉田ゆき 新潟)
小腸切除(残)一米闘病に勝抜く(田中敏晴 奈良)
孫に連れられ旭山動物園に行った(藤昌見 山形)
民主党が意外にしっかりやっていると(千木良宣行 埼玉)
希望です(林克 福島)
常に喜びをもって句作り(五十嵐勝敏 新潟)
自家製干し柿を作った(田村淳子 新潟)
大腸の精密検査で異状が無かった(大久阿雅子

東京)
7・8月と続けて二人の孫に恵まれました(山本義明 千葉)
検査の結果が良かった(平山千江 岩手)
①北海道から神戸まで俳句指導に出かけた②ねんりんピックで児童の二六〇〇句を選句した(梶鴻風 北海道)
自民党が少数になり民主党が多数議席を得た(春口蓮男 静岡)
十月に合同句集「まひまひ」を出版。お祝いで飲み過ぎました(堀井酔人 茨城)
8月30日民主党圧勝。孫の就職先が決定(藤原昭三 滋賀)
子、孫友人に感謝、みんなに支えられて日々好日(津田忠彦 岡山)
どなた様と五年近くいわれ続けていた母に名前と呼ばれた(望月よし江 埼玉)
貴社の「尽力により句集『風知草』が上梓出来た(堀木和子 大阪)
エコー購入。妻と旅行。環境に感心を持っています(土屋喜雄 山梨)
初孫誕生(北村純一 神奈川)
念願の第二句集を上梓(大谷茂 埼玉)
可愛がついていた姉の孫娘が結婚式にハワイへ招待してくれた(山本直子 大阪)
八月の選挙で投票した人が当選し初めて与党に黒澤正行 福島)
旧知の友を招き茶会(煎茶)を催した(佐野しづ子 愛知)
一つといわれれば日本文理高校の頑張り(今井勝子 新潟)
何事も喜の字の如く生きよう(竹内ハヤ子 埼玉)
家族で妻の還暦祝い(桑原謙一 群馬)
母の卒寿(早矢仕那夫 愛知)
娘の妊娠(富樫和子 山形)
歌舞伎役者の子供達が次々とお目見得(染五郎、松緑の子供たち)秋谷静子 茨城)
拙句集『アポロンの異』製本の見事な出来栄(神田九十九 東京)
政権交代実現(大竹和男 新潟)
日本国民が二大政党併立の良さを覚えた(諏訪杜夫 埼玉)
八十二才での句集出版(炭一博 滋賀)
芭蕉詠俳句に入選(教子の子の)はや定年とある(賀状)(吉田ひろし 愛知)
政権交替(藤沢樹村 東京)
喜びに向って世界が日本が動き出す予感がする(篠木登志枝 群馬)
孫二人職に付けて良かった(丸山道子 新潟)
妻がくも膜下出血で三度開頭手術。それでも無事に退院(坪田勝秀 鹿児島)
喜

をモットーに平凡な一年であります様に(中西孝子 兵庫)
政権交替。狂喜しています(稲葉民雄 千葉)
九十八才の大竹三千子様と「さよなら歌舞伎座」を昼夜通しで観劇(矢野絹枝 東京)
広報「喜怒哀楽」を送っていた(いた(松尾正一 岩手)
孫のめざましい成長(野呂瀬幹雄 愛知)
県大会にて短歌で表彰(田邊美代子 三重)
友達と俳句の吟行で伊豆に(稲葉節子 静岡)
句集『寒島』の出版と孫の野球チームの優勝(宮川昭男 高知)
九十歳を十カ月過ぎ、密かに喜んでます(野村盛明 埼玉)
民主党が大勝利(政権についた事はめでたい(佐藤茂三郎 千葉)
古い友人達と師を囲んでの56年振りのクラス会(白鳥光雄 青森)
介護福祉士合格と所属結社新人賞受賞(堀たかこ 大阪)
我が結社星座100号記念が盛大に行なわれた(堀 信一郎 大阪)
日々是好日(日々多く有り(早川述史 愛知)
総選挙で野党が大勝(アメリカ式の二大政党時代の幕開けか?(居原田連星 大阪)
生まれて初めて『フォト俳句集』を自費出版(小林七重 新潟)
新政権誕生、日本が変わることへの期待(大石原寛 千葉)
新潟高柳かやぶきの里の旅(「きつねの夜祭」に参加(梅津陽子 千葉)
娘の結婚(中山学 愛知)
不治の病に倒れ三年半それでも少しづつ快気に向い喜んでます(延原令岱 岡山)
妻ともども病氣回復に向った(田島星景子 宮城)
狭心症になりましたが早期発見で治療して頂きました(堀田寿美子 北海道)
初孫誕生(中林恵子 大阪)
息子夫婦に子が誕生(小暮昭司 群馬)
病気で寝こまなかった事が喜び(中嶋秀次郎 埼玉)
新政権誕生、少しは政治の浄化が進むものと期待(吉村充治 埼玉)
初句集の発行、感激(湯浅芳郎 岡山)
三人の孫たちがすくすく育ち家族揃って一緒に中山寺へお礼参りできた(岩崎令子 大阪)
喜怒哀楽で俳句を取り上げていただいた(大窪美代子 大阪)
永年の夢、地中海クルーズに夫共々行きます(岡弘子 埼玉)
傘寿と

喜寿を共に健康で迎えられた(西村けい 茨城)
十一月二日、母が満100才を迎えた(岸田晴代 奈良)
不整脈で6・7月に入院、死線を超えて退院し家族が快気祝いを(吉野成行 愛知)
孫大入学。家族皆健康、ありがたいの一言(石原学 群馬)
夫が突然倒れ、入院時の嫁の手際よさと思いやり(竹澤茂子 大阪)
高校生の孫がハードルでインターハイ出場(後藤美佐子 長崎)
漸く白内障の手術をし浮世が明るくなった(佐藤政實 埼玉)
政権交代(鈴木与平 宮城)
「サカタのたね」の大根の「たね取り寄せ大豊作(重原昇 新潟)
桜の通り抜けに。幾度も行ききましたが相手が初めて主人だったことを大切に思います(中山日出子 大阪)
福井県秋季総合俳句大会に入院中の身で選者として出席できた(大下志峰 福井)
一年を平穏に暮らせて随喜の酒を楽しむ(杉浦俊雄 静岡)
貴誌ののせていただけの喜びと届く喜び(大橋絵代 千葉)
五月に徳島九月に北海道へ(県代表として)ゲートボール全国大会に出場(森 桑久 岡山)
NPOネットワークの自費出版に応募。句集部門で文化賞入選(池田岬 埼玉)
喜びは何時もあたえて貰へたり。嬉しいです(清まさじ 静岡)
元祖「柄井川柳師」三〇〇回忌慰問法会が勤められた(森本遊笑 兵庫)
「人生」は「喜び」。うれし泣きも好きですが(久保和友 滋賀)
金婚式を迎え市長から記念額を授かった(仁藤ひろじ 埼玉)
今年も「喜怒哀楽」の皆様の名句に接する事ができ本当に「喜び」の一年(田野井一夫 栃木)
毎年記念旅行をして、婚歴六十年に(八木智恵子 千葉)
夫がリハビリの結果又元気で散歩に出かけられるようになった(奥田昌子 大阪)
吟行句会で入賞できた(大場きよし 宮城)
息子の婚約(北嶋八重 京都府)
「怒」
タバコ小売商ですがtasポカドのスーパー大型店の協力で煮えくり返る(佐竹章 宮城)
怒が代って怒りとも不安とも(佐藤君夫

千葉)ノユース見て思わぬ出来事に怒りを覚える(羽田桐柳 群馬)ノ北朝鮮の正常でない総ての行為(内河邦久 東京)ノ10月号の堂々たる盗作!(大井光隆 神奈川)ノ官僚の意落冤罪(小俣英之助 大阪)ノ各界の悪業。「誰でもよかつた」に怒(福岡悟 東京)ノ政治家の言動(五味田幸夫 栃木)ノ一ヶ月程前に違反してしまい、ゴールド免許取得不能に(辻升人 東京)ノ政治家をはじめとして日本人の心は腐っています(小山たけし 埼玉)ノ近年外出すれば腹を立てて帰宅することが増えました(川崎洋吉 福岡)ノジョッキング中に田や畑にビンや空缶が投げ込まれているのを見る時(井上静夫 栃木)ノマニフエストをふりかざす政府の政策(齊藤安弘 神奈川)ノ折角計画した新婚旅行が台風十八号で欠航中止に(羽根田明 神奈川)ノマニフエスト優先政治。改変して国民の真意に答えてもらいたい(野口昭夫 群馬)ノ鳩山さん言うは易しです(宇田川正雄 埼玉)ノ何故かこの一字(池本勇 大阪)ノ政治に対する怒山 鶴恵 鹿兒島ノ生命を粗末にする事件が目にあまる(針生清 千葉)

〔哀〕  
友人知人の計が多かった(吉田未灰 群馬)ノ十五年間続いた活け花教室が先生の都合で閉会になった(平賀田鶴子 愛知)ノ自転車の事故に遭い骨折(三ヶ月の入院(木暮珣子 群馬)ノ地震や津波で亡くなられた方々やご家族の嘆きを想うと(佐藤佑子 福島)ノ肺癌の告知を受ける(吉村筑紫 埼玉)ノ郡山の俳人・丹治法男氏の逝去(松嶋光秋 東京)ノ膝の調子が悪く思う様に動けない自分(ストレス、情けない思いに一人涙星 一子 神奈川)ノ母が亡くなつて一人の生活に(梅澤鳳舞 埼玉)ノ人生には上り坂下り坂まさかの坂あり。悪いまさかは胸椎骨折で一ヶ月入院(大久保アヤ子 東京)ノ中国四川大地震で未だ倒れた学校のカレキに埋もれている生徒と家庭(三津木俊幸 千葉)ノ自民党の惨敗、民主

党の政権交代、マニフエストだけでは長く持ちこたうもない(青木日出男 群馬)ノ我が家の飼いた「陸」が交通事故死(大川聡 新潟)ノ身内に不幸があり心いたみましました(高須孝 愛知)ノ主人が二度入院。看護疲れてますます老いました(村松知津子 大阪)ノ哀は愛に、また合にもつながついていると思う。只は別れるだから人生また合いたいと思ふ心で生きている(高安春蘭 大阪)ノ夫が他界。悲しみでなかなか立ちあがれませんが(須田洋子 埼玉)ノ47才で亡くなった字分にしてある三人の子の父。何としても可哀相な出来事。とてした(木村貞恵 静岡)ノ義弟が亡くなった(野村幸人 東京)ノ人生の感情はこの四つに表現できその中でも「哀」は優しさ、悲しさに通ず(浦橋克行 兵庫)ノ出合いのうれしさを別れ哀しさ。今とてももらいです(近藤はつみ 福岡)ノ政治の不安定、経済就業の心配ごと(能條憲夫 神奈川)ノ親しかった友人との別れ(佐藤信 神奈川)ノ民主台頭・自民惨敗(渡邊昭雄 東京)ノ金融投資の電話、詐欺とわかりながらつい誘い込まれる自分が(哀しい)忍正志 兵庫)ノ句会の二日前早朝の師の急逝。八月の合同句集出版前(小原わ子 大阪)ノ句会の友が逝去(乾久子 滋賀)ノ家内が仙台的病院に入院、哀れと思う日も(齊藤慎悦 秋田)ノ実兄が他界(柚山美峯 東京)ノ「政権交代」キヤッチフレーズに自民退、今度はやはり自民自民と(中森儀雄 三重)ノ久しぶりに会った友人が三ヶ月後に亡くなった(金子正宏 茨城)ノ今年二度の入院生活(半月づつ)原因不明のまま(高杉杜詩花 北海道)ノ娘の病氣(和田迪代 静岡)ノ春に急に右ヒザが痛くなりそれでも夏に立山の雄山に登りましたが(今度左ヒザ痛が(小山恵美子 大阪)ノ夫婦ともに入院手術(相馬竹浪 新潟)ノ急に血圧が上がリ救急のお世話に(佐伯セツ子 香川)ノ弟の娘が急死して弔電に「俳句」を入れると特別に発表された(浜田蛙城 静岡)ノ闘病の末病死した孫(三才)の事(小野寺裕子 宮城)ノ親友の死(鈴木辰彦

愛知)ノ楽しみにしていた東京旅行が(出発三ヶ月前のケガで参加できず(中村和弘 愛知)ノ足の激痛で歩けなく入院。今もリハビリ、命のあることに感謝!(柳澤京子 宮城)ノ精神的に一番デリケートな関り方をする「ことば」である(中岡昌太 神奈川)ノ夫の病氣に明け暮れた一年。先が見えないのが(奥那於子 大阪)ノ天候不順で茸が不作残念(本間七窪子 山形)ノ義兄を亡くし、実弟の八十才肺癆手術等々(藤井春三 埼玉)ノ政権交代により哀の心情が漂っている(神一男 静岡)ノ同年兵が身罷る(小西四郎 東京)ノ昨年母親をそして今年を妻を亡くした今…。寂しい、哀しい(藤井北灯 福岡)ノ庭仕事中に重症の推間板ヘルニアを発病。痛みに耐えて生きる哀しさ、身障者となった無念痛感(野原香雪 北海道)ノ友人の死・猫の死(増本和子 千葉)ノ退職してのんびり…と思つたが病人のことで手がかり(新井竜才 埼玉)ノご紹介者に比べられない(篠辰夫 千葉)ノ主人の一周忌を終え改めて生への執着が感じられる(阿部幸子 宮城)ノ掌友の皆腰が弱って遠出が出来なくなった(矢部昌子 岡山)ノ八つ場ダム騒動に渦中の人々の生き様(布目雅之 埼玉)ノ十月十六日母死去(村木尚 新潟)ノ母の葬儀が年明け早々に。はや一周忌が近づいています(出井静枝 三重)ノ身内が次々と病氣に倒れ、今年には人生の哀感が一入(池上秀子 高知)ノ兄(91歳母(112歳)新潟県最高齢の永別。肉親としては哀しみのうちにも満たされた別れでした(佐藤秀子 東京)ノ一言多いことで友人を傷けてしまった淋しさ(上谷すみゑ 神奈川)

〔楽〕  
すべて「楽」に付けようとしています(千代田栄次 東京)ノ第4回喜怒哀楽旅行、誠意を感じる天地人訪問旅行でした(鈴木清美 愛知)ノ弟がゴルフでホールインワン。姉弟五人が夫婦づつで箱根旅行の一泊をプレゼントされた(堀井 和 神奈川)ノ月二回の句会とは本当に楽しみ、地方の友との句会も楽しむ(岡本歩

城 高知)ノ今年には丑年老いらくの一年にたりそう。人生は楽しく云々(山東爺 北海道)ノこの一年健康で方々へ旅行できた(渡辺嘉幸 東京)ノ長年の望みがかない主人と北海道に行き大平原を堪能(大塚徳子 埼玉)ノアメリカ在住の孫が友達を連れて帰り楽しい一カ月でした(竹本惇子 山口)ノ癌といふもの切除して三月ごと検査うけつ、今日を生く。感謝(百花清 埼玉)ノ東京湾クルーズでの船上ジャズ。栃木・群馬へのぶらり旅行など飲み食いの楽しさ万才!(鈴木岑夫 千葉)ノ子供達と一緒に国体炬火リレーに参加(若月理依子 新潟)ノすべてを楽しんでやるのが進歩の要(野別忠孝 埼玉)ノ苦しみが多い世相に俳句を通して楽しみを説いた(有坂馨園 福島)ノ古典の内容を知ること。古典を繙く、更科日記(今井忠一 東京)ノ癌の克服(北野耕兵 千葉)ノ毎日生きているのが楽しくて楽しくて(鈴木蝶次 宮城)ノ民主党の圧勝。楽を選んだのはよくよしてもはじまらないから(若村昇神奈川)ノ九月に仲間25名と一緒に回つた五泊六日の中国旅行(四宮陽一 京都)ノ中国旅行(中川平治 東京)ノ三重県津市の秋祭りに行き4時間程盆踊りの行列をみて来た(小原登志子 大阪)ノ忙しい年だったが好きな事が出来て楽しかった(長峰正晴 千葉)ノ琵琶湖一周ウォークに参加して無事完歩出来た(小田眞佐代 大阪)ノ家族や趣味の仲間との行事に参加できた(萬濃その子 千葉)ノ俳句コーラス・ポウリングに遊みたい(古谷力 東京)ノ同窓会、楽しく懐かしかった(沢美美子 静岡)ノインカ道散策(津布久信 東京)ノ横浜から小樽までの船旅、船内での様々なイベントや船上句会(岡村君枝 茨城)ノ急に俳句にはまり続けています(福田和子 東京)ノ楽あれば苦ありだが常に楽しさを感じて日々を送りたい(高垣勝代 大阪)ノ長孫が希望の大学に入学、夢に向い学習しています(吉澤昌美 長野)

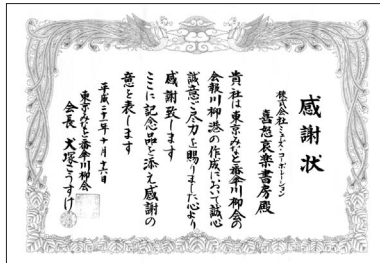
## 東京みなと番傘川柳会 45周年記念句会を開催



▲会長の犬塚様は「句文集 ヒヨコのつばやき」も併せて出版

10月16日、弊社で月刊誌をお手伝いさせていただいています東京みなと番傘川柳会創立45周年記念大会が品川区大井町の「きゅりあん」で開催されました。

落語と合唱のアトラクションに続き会長の犬塚こうすけ様よりご挨拶。その後は番傘本社主幹 磯野いさむ様、全日本川柳協会会長 今川乱魚様からの祝辞、表彰式と続き、長年の功労者の他に弊社も毎月の「港」誌の出版に貢献ということで感謝状を頂戴いたしました。

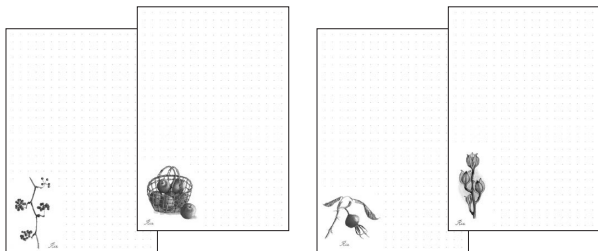


◀次は50周年をめざし弊社もバックアップさせていただきます

## 好評！ポストカード発売中

弊社オリジナルポストカードの「秋」「冬」シリーズが揃いました。今回一枚同封いたしましたので、ご使用のうえお気に召されましたら、同封のアンケート用紙にてお申し込みください(1セット8枚入り500円)。今後「春」「夏」シリーズも予定しておりますのでご期待ください！

秋…松ぼっくり、エスプレッソマシン、くるみ、ほおずき、きのこ、野ぶどう、コスモス、紅葉  
冬…ウバユリの実、りんご、ローズヒップ、サルトリイバラ、いちい、スノードロップ、シクラメン、雪景色



## 「2010年手帖」遅くなり失礼いたしました

11月下旬、「2010年手帖」を発送させていただきました。手拭いに「喜怒哀楽」の文字を染めた弊社オリジナル手帖の今年の表紙は桜色。全国にどこにもないというこの「一斤染」という色は、手にした方からすでに好評をいただいております。若干、まだ数に余裕がありますので、お求めの方はご連絡ください(本誌P16参照)。振込用紙同封にてお送りさせていただきます(1冊800円)。なお、お問合せ時点で既に数がない場合はご了承くださいませ。



## 「ご縁ブック2009年喜怒哀楽」12月中旬発送予定です

「ご縁ブック」大変お待たせしております。今年は例年とはがらりとイメージを変えた新しい装丁でお届けの予定です。恐れ入りますが、いましばらくお時間をくださいますようお願いいたします。

## スタッフの一言

Q. 今年一番印象に残った「喜怒哀楽」?



木戸 敦子  
楽 基本楽しいことメイン。あ〜あ、と思えばね〜と飲み会を入れる。本当は今年あった出来事も忘れていた喜怒哀楽書房の「忘」です(汗)。



古川 久美子  
楽…? 楽しい一年だった出来事以外は忘れました(笑)。いろんなところに行って、新しい出会いがあって、素敵な一年だったなあ……。



菅 真理子  
哀 というわけでもないですが、忘れられないことは…8月、東京は渋谷駅で迷子になり、10月、大阪は森之宮駅で迷子になったこと。自身の勘違い方向音痴に苦しめられました(笑)



仲由 真実  
楽 喜怒哀楽書房でお仕事ができるようになって、毎日が楽しい。楽しいスタッフと一緒に好きな仕事ができ幸せだなあと感じます。



上村 真智子  
楽 1週間前の事は覚えていませんが、最近1800年位前の中国にハマリ、居酒屋三国志という所で三国志お遊びクイズに挑戦しています。おまけてもらって3回目合格!!



金子 ゆり子  
哀 どこもかしこも不景気風が吹いていたこと。  
喜 何と言っても健康が第一、健康で過ごせました。



石山 由希子  
喜 13年乗った車を軽自動車に買い換えて補助金がもらえました!あと家族親族友人が1年息災で過ごせたこと。ただ個人的に肩こりで頭痛にしてやられた一年でした(哀)。



山田 千秋  
楽 家族全員病気もなく、元気に暮せたこと。こんな一年が一番楽しく幸せと感じます。喜 息子の第一志望合格。念願かなって喜びました。



吉田 瞳  
楽 独身以来、舞台、コンサートに行けたこと♪  
哀 新しいものの好きで、新型インフルにかかってしまった。やはり厄は怖い(涙)

8回目の今回は、前回の三ツ木宗一さまからバトンを託された久保田陽子さま。巣鴨ののどかな小春日和の一日を追体験できます。

## 巣鴨地藏通り

久保田陽子

山手線の巣鴨駅を出て、信号を渡りすぐの線路沿い左側に「梁井吉野」と書かれた発祥の地碑があります。花の盛りの頃に、電車の風圧に散る桜を見るととても幸せな気持ちになれること、うけあいです。

人の流れにつきすぐに、真性寺旧中山道の守り江戸六地藏の三番銅造地藏菩薩坐像がありますが、現在は御身代りの小さなお地藏様が、大きな蓮座に在します。境内には、芭蕉句碑と頼山陽の碑文等があります。

今日は菊まつりの最中で、大菊、小菊、厚物、管菊等が阿弥陀堂を囲み、虻や蜂も寄り賑やかです。お堂の中には、菊の生花展、俳句の短冊も掛り、投句箱のそばには閻魔大王が睨み、外には、浦島太郎の菊人形が大きな亀に乗り童唄と共に廻ります。

名物の塩大福を買う列を横目を通り過ぎ、昭和四十年頃の雰囲気の店、食堂、喫茶店、漢方薬局、洋品店、帽子屋：等々に立ち寄り間もなく、高岩寺とげぬき地藏尊へ。この地藏尊、心の刺でも、どんな刺でも抜いてくださるといいます。ここにも菊で飾った五重の塔、懸崖菊等を囲んでベンチが並べてありますが、座る際もありません。暖かく、本当の菊日和です。特に四のつく日の縁日には商店の前に屋台が並び、人と人がぶつかるほど混雑します。

さて、本日の目的はプレゼント用の赤パンツ。少し先にある専門店の店内は、赤一色で頭がくらくらするほど。干支の刺繍の付いたパンツや、若かえるとのネーミングで蛙の刺繍が施されたもの、若者に人気の「必勝」の文字も楽しい商品等が見受けられます。いずれも暖かく元気が出て、しもの病気にならず、いろいろな厄を除けるとか。流行の可愛い腹巻、手袋、靴下など、全身を赤い色で包むことも出来、まさに楽しく身にまとう夢を買うようです。

浴槽を売る店先には足湯の設えもあります。気がつくと、巣鴨庚申塚まで来ています。江戸時代には境内が広く藤棚が有名な行楽地であったと江戸名所絵図に出ています。今は辻の角に小さなお堂が建ち、三猿の石塔が赤いちゃんちゃんこと頭巾をかぶっています。大晦日には甘酒がふるまわれるという。

都電荒川線の庚申塚のホームには人の影が長く伸びていました。

## 俳句の言葉

松嶋 光秋

今頃は桜吹雪の夫の墓

飯島晴子

花菜漬夫の知らざる石重し

殿村菟絲子

夫恋へば吾に死ねよと青葉木菟

橋本多佳子

秋裕夫にたやすく涙見す

花谷和子

ほとんどの方が、初心者時代に、句会の披講のときに、この「夫」を「おつ」と読み上げて、周囲の人から「つま」と読み間違いを指摘されて、赤面した経験をお持ちだと思います。(これだから俳句は嫌いだ)と思われる方も多いかもれません。

俳句の言葉は、文語つまり古語を使うことが多いのです。この古語は、昔用いられたが、今では日常生活ではほとんど使われなくなった言葉です。

俳句の世界では、古語が今でも生き生きと使われているのです。では、どうして、「夫」を「つま」と言うのでしょうか。

私の大学時代の恩師、国語学者大野晋先生の説くところでは、【大昔は、男は、夜になると女の家に通って行った。そして、夜を一緒にすごすと、翌朝明るくなりきらないうちに、自分の家に帰った。こういうことを繰り返すうちに、本当に結婚しようということになると、自分たちの住む家を主屋（おもや）の脇に建てた。これをツマヤと呼んでいた。ツマとは、端（つま）と同音で、物の本体の脇の方、はしをいう。ツマヤとは、本家の脇に建てる家だから、ツマとヤ（屋）とを組み合わせて呼んだものと思われる。そのツマヤに住む若者たちは、男の方も、女の方もツマと呼ばれた。男は相手の女をツマといい、女も相手の男をツマと呼んだ。それが後には、女だけがツマというように、使い方が狭くなってきたのである】（大野晋著「日本語の水脈」）

英語が国際共通語として全盛の今、日本語が危ない、衰亡の兆しがある（水村美苗著「日本語が亡びるときー英語の世紀の中でー」）と言われております。俳句を作ることが、日本語を守ることに通ずるのではないかと思います。

# 新潟ぶらり

## ＊萬代橋西詰 高浜虚子句碑

俳人池田澄子さんが書かれた「雪の橋」（弊誌二〇〇七年十二月号掲載・『あさがや草紙』角川学芸出版所収）で、萬代橋と昭和橋を新潟の橋として覚えておいでのかたもいらつしやうと思う。

なかでも萬代橋は新潟のランドマークのひとつであり、重要文化財の指定も受けている美しい橋である。

かの俳人高浜虚子も新潟を訪れた際、この橋を渡った。

渡ったときの句が、残されている。

### 千二百七十歩なり露の橋

虚子が新潟を訪れたのは大正十三年九月。ちなみに虚子は戦後何度も新潟を訪問していたという。



萬代橋の西詰にあるホテルオークラの前に、この句碑がある。前を通るたび、「オークラのシャンデリアが見えるかも」なんてホテルを

覗きこむようにみつめていた私は長らくその存在に気づかなかった。

この句碑を建てたのは虚子に師事していた中田瑞穂。句碑のとなりにある解説文をみると、次のようにある。



大正十三年九月 虚子先生を新潟に迎へたる時の先生の句を新萬代橋竣工の昭和四年に御揮毫くだされしもの 昭和四年十一月みづほ記

昭和五十三年深秋 新潟俳句会建立

【参考】この句を詠んだ当時は木製の二代目萬代橋で、長さ七八二メートル 現在の三代目萬代橋は、三〇七メートル

中田瑞穂は、俳人としてご存知のかもしれませんがと思うが、実は脳外科学者でもあります。新潟医科大学の助教授として来新、かの平澤興の同僚であったことも見逃せない。

秋も深まった曇天の下、萬代橋を歩いて渡ってみました。四百九十八歩であった。（菅真理子）

## ＊新潟市立中央図書館

### ほんぽーと

新潟市立中央図書館ほんぽーとは、新潟駅から徒歩十分のところにあります。二〇〇七年に開館されたばかりの新しい建物です。現代的で広々とした建物と、幅広い年代のかが楽しめる豊富な蔵書が魅力です。清潔で明るい雰囲気、座席数も充実しています。本を借りるためだけでなく、館内でのんびりとして一日を過ごしたくなる図書館です。

入館すると、まずエントランスホールでは「第一回新潟市中学生キラット短歌大会 入選作品展」が開催されていました。キラット短歌大会は、短歌文化の振興を願って愛好家の方々が中心となって主催されたものです。中学生の素直な力作が毛筆にしたためられて、誇らしく展示されていました。

入口近くのテーマ展示コーナーでは、司書のかたのおすすめの本や、季節の本、新潟に馴染みのある本などが選りすぐって紹介されています。「うまさざつしり新潟の食」というコーナーでは、新潟県内のおいしいものが分かる本が三十冊近く紹介されていました。何を讀もうか迷ってしまうというかたは、まずこちらでおすすめの本をチェックしてみるのも楽しいと思います。

一階には、文学・旅行・芸術・くらしに関する書籍があります。それぞれの分野に豊富な種類の本があるので、じつ

くりとお気に入りを見つけられます。約五千冊ものマンガコーナーがあるのも、ほんぽーとの特徴のひとつです。二階に上がると、社会科学・歴史・哲学などの書籍があります。CDやDVDも所蔵され、個別ブースで鑑賞もできます。広くて本を探すのに迷ってしまいうですが、係の方が親切に詳しく案内してくださるので安心です。検索端末があるのも便利です。



落着いて本と親しむことができます。一方で、子供や学生も含めて多くの人が楽しめる、活気のある雰囲気を感じました。館内にある、BCaEではランチも食べられます。新潟のワイナリー・カーブドッチプロデュースということで、こちらも本と一緒にぜひ楽しみたいたいものです。（仲由真実）

新潟市立中央図書館ほんぽーと

住／新潟市中央区明石2丁目1番

10号

☎／025・246・7700

開館時間／月曜～土曜10時～20時

日曜・祝日 10時～17時

休／毎月第1水曜日、毎月第2金曜日

日、年末年始、蔵書点検期間

# 十三夜の月

日原 傳



十五夜の月を日本では芋、団子、芒の穂などを供えて賞し、「芋名月」と呼ぶ。中国でもこの中秋節はたいへん大事な日であつて、この日に向けて様々な種類の月餅が街のあちこちで売り出される。漢詩の世界では、

三五夜中新月色 三五夜中 新月の色  
二千里外故人心 二千里外 故人の心

という対句で有名な白居易の七律「八月十五日の夜 禁中に独り直し月に対して元九を憶ふ」がまず思い浮かぶ。宮中に宿直した白居易が、十五夜の月を眺めながら遠くへ流された親友の元稹を思って作った詩である。

一方、「豆名月」「粟名月」の呼称をもつ十三夜の月を賞する風習は日本独自のもので中国にはない。寺島良安『和漢三才図会』時候類によれば、鳥羽天皇の保安二年（一一二二）に關白の藤原忠通が十三夜の月見の宴を開いており、それが起源とされている。江戸時代の荻生徂徠（一六六六～一七二八）には十三夜の月を旅先で賞した次のような七絶の名作がある。

### 還館作（館に還りての作）

甲陽美酒緑葡萄 甲陽の美酒 緑葡萄  
霜露三更満客袍 霜露 三更 客袍に満つ  
須識良宵天下少 須らく識るべし 良宵天下に少なるを  
芙蓉峰上一輪高 芙蓉峰上 一輪高し

「甲陽」は甲斐の異称。「甲陽の美酒」はワイン。起句は李白

人気のこのコーナーを「担当いただいた詠み人、日原さんも今回が最後のご登場となりました。月、甲陽、酒…各回とも余韻を引く、ワインの残滓のような味わいを残していただきました。次回からは昭和36年生まれ「天為」「屋根」同人の詠み人に「執筆いただきます。ご期待ください。」

の七絶「客中行」の起句「蘭陵の美酒 鬱金香」を模している。「三更」は夜中の十二時ごろ。「客袍」は旅衣。「芙蓉峰」は富士山の異称。

徳川綱吉の寵臣であつた柳沢吉保（一六五八～一七二四）は宝永元年（一七〇四）に川越藩七万石から甲府藩十五万石に転封になった。吉保に学術をもつて召し抱えられていた徂徠は、同僚の田中桐江とともに甲斐の新領地の地理の調査を命ぜられる。その時の記録は紀行文「風流使者記」として残されている。宝永三年九月七日に江戸を立ち、十九日に帰着。延べ十三日の旅であつた。出発前日に詠んだ留別の詩まで含むと、この旅で徂徠は百五十三首、桐江は百四十七首の漢詩を詠んでいる。その多作の力量に驚かされる。九月十三日は夜の十時ごろに宿舎に戻り、疲れてはいたが、窓を開けて十三夜の月を賞したという記事があり、先の詩を含めて徂徠は月の詩を三首詠んでいる。私の故郷は徂徠が旅をした山梨である。実家へ帰省したときの光景を徂徠の詩を踏まえて、次のような七絶に仕立てた。題は「故山秋夜」。

老親已睡三更風 老親已に睡る 三更の風  
家圃葡萄盛竹籠 家圃の葡萄 竹籠に盛る  
今夜須斟甲陽酒 今夜須く斟むべし 甲陽の酒  
芙蓉峰上月玲瓏 芙蓉峰上 月玲瓏たり

「三更」は午後十時ごろ。「家圃」は家の畑。

## 編集後記

「今年の印象に残った喜怒哀楽」(P11-12 参照)で一番多かったものは「喜」。政権交代やらデフレやら目まぐるしい日々の中でも、一人一人はしっかりと立ちその生に「喜」を感じていることに安堵しました。正直な話、歳を重ねるとともに「哀」が多くなるものと自然と刷り込まれていました。でも出会うお客さまはどなたも活き活きと今を謳歌され、年寄りはいくつもの、という諦念を微塵も感じませんでした。いつか来た道、いつか行く道。「喜」の多さは、後を追う者への何よりのプレゼントです。（木戸敦子）

2009. 12. vol.47 (2009年12月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17  
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
喜悲哀楽書房 株式会社 ミューズ・コーポレーション  
0120-819-395  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com